

会 議 録

(1 / 10)

| | |
|-------------------|--|
| 会議の名称 | 平成28年度第2回川越市立美術館協議会 |
| 開催日時 | 平成29年 2月 9日 (木) 午前10時00分 開会 ・午前11時30分 閉会 |
| 開催場所 | 川越市立美術館会議室 |
| 議長(委員長・会長)氏名 | 会 長 宮 澤 光 造 |
| 出席者(委員)氏名 (人数) | 副会長 梅 津 元 委 員 長 江 艶 子 委 員 神 山 正 久 委 員 井 口 修 一 委 員 高 杉 雅 章 委 員 山 田 誠 次 委 員 尾 崎 勝 美 委 員 塚 原 ま り (8名) |
| 欠席者(委員)氏名 | 無 |
| 事務局職員職氏名 | 美 術 館 美 術 館 長 岡 部 秀 子 副 館 長 永 島 芳 典 副 主 幹 谷 平 絵 美 子 副 主 幹 横 山 り え (学芸員) 主 査 濱 田 千 里 (学芸員) 主 査 折 井 貴 恵 (学芸員) |
| 会議次第 | 1 開会 2 議題 (1) 平成28年度事業報告について (2) 平成29年度事業計画について (3) その他 3 閉会 |
| 配布資料 | ・次第 ・川越市立美術館協議会委員名簿 |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・資料1 川越市立美術館データ表・資料2 川越市立美術館特別展記録・資料3 アンケート結果・資料4 平成28年度教育普及事業・資料5 平成29年度展示予定・参考資料 平成28年度特別展ちらし、K a r t - N E W S |
|--|--|

| 議 事 の 経 過 | |
|-----------|--|
| 発 言 者 | 議題・発言内容・決定事項 |
| 事務局（館長） | 本日の協議会は、川越市美術館条例施行規則に基づき、会議が成立することを報告いたします。 |
| 会長 | <p>1 開会</p> <p>本日は、委員の皆様におかれましては、年度末のお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。早速、会議に入りたいと思います。</p> |
| 事務局（副館長） | <p>2 議題</p> <p>(1) 平成28年度事業報告について</p> <p>資料1「川越市立美術館データ表」、資料2「川越市立美術館特別展記録」について説明を行う。</p> |
| 事務局（学芸員） | 今年度開催した3つの特別展について、各特別展を担当した学芸員がそれぞれ資料3「アンケート結果」の説明を行う。 |
| 事務局（副館長） | 資料3「アンケート結果」館内備え付けアンケート結果について説明を行う。 |
| 事務局（主幹） | 資料4「平成28年度教育普及事業」について説明を行う。 |
| 議長（会長） | 浮世絵の展覧会については、平成23年度の春展において「浮世絵名品展」を開催していますが、この時の小中学生の観覧者数が4,335人となっています。今回の春展では、2,055人に留まっていますが、このように大きく減少している理由は何でしょうか。 |
| 事務局（学芸員） | 平成23年度については、市内小学校バス見学が春展の際の1回に集中していたのですが、今年度は、運動会等の学校行事の影響から春展と秋展の際の2回に分散したためです。 |
| 山田委員 | 学芸員による展示解説の際、春展では手話通訳者が付いていますが、他の特別展の展示解説の際は実施しな |

| | |
|----------------------|---|
| <p>事務局 (学芸員)</p> | <p>ったのでしょうか。また、手話通訳を必要とする学校や団体が来館するということから手話通訳者付きで行うのでしょうか。</p> <p>特別展の展示解説の際は、必ず1回は手話通訳者付きで実施しています。また、一般の観覧者で手話通訳者を必要とされる方々を対象にしており、特別展のちらし及び広報に手話通訳者付きで実施することを掲載しています。</p> |
| <p>井口委員</p> | <p>資料4「平成28年度教育普及事業」の中で、美術館利用研究委員会が関わっている事業がありますが、教員がどのように関わり、また、学校教育にどのように還元しているのか教えてください。</p> |
| <p>事務局（主幹）</p> | <p>美術館利用研究委員会については、委員長が校長、副委員長が教頭、委員は小学校2名、中学校2名となっています。小学校のバス見学や「びっくりアート」について、美術館と一緒に企画運営に取り組んでいます。学校教育との関わりにつきましては、例えば「図工・美術わくわくフェスタ」では、委員である教員の学校を中心として、他の学校にも参加を呼びかけるといった中心的役割を担っていただくとともに、教員同士の情報交換や作品出品者である生徒への意欲付けということにもつながっているものと思います。</p> <p>また、今週、教員向けのアートカード研修を行います。学校の研修ではできない、美術館ならではの内容になっています。こちらも委員である教員が参加者の呼びかけに協力し、自らも参加していただいています。</p> |
| <p>井口委員</p> | <p>図工・美術の教科としての取り組みという点ではどうでしょうか。</p> |
| <p>事務局（主幹）</p> | <p>児童生徒が夏休みを利用して美術館に来てくれるよう各学校にスクールニュース、ちらしを配付しています。一部の学校においては、美術館に行った際のレポートを夏休みの宿題としているところもあります。また、授業で美術館主催イベントに出品するための作品を制作している小中学校や図工クラブが美術館主催イベントを発表の場に行っているといった小学校もあります。</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>事務局 (学芸員)</p> | <p>2 議題</p> <p>(2) 平成29年度事業計画について</p> <p>各特別展・タッチアートを担当する学芸員がそれぞれ資料5「平成29年度展示予定」の説明を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 春展「驚きの明治工藝」 ・ 夏展「名品と出会う-企業コレクションによる日本近代洋画展-」 ・ 秋展「中林忠良展(仮)」 ・ 冬展「開館15周年記念特別展〈小江戸文化シリーズ〉4 生誕130年 小村雪岱―「雪岱調」のできるまで―」 |
| <p>事務局 (副館長)</p> | <p>平成29年度教育普及事業に関しましては、ただいま検討中であり、資料を提出することができず、誠に申し訳ありません。</p> |
| <p>神山委員</p> | <p>「驚きの明治工藝」は京都の細見美術館で開催されたものですが、私たち職人にとっては必ず一度は見てみたい、それだけ価値あるものだと思います。また、同じく京都に清水三年坂美術館という素晴らしい美術館がありますが、そちらでは小村雪岱の素敵な作品集も販売されています。そうした意味でも来年度の特別展は反響があるのではないかと思います。先程「小村雪岱展」では図録を製作し、販売するとのことでしたが、「驚きの明治工藝」については、図録を販売するのでしょうか。</p> |
| <p>事務局 (学芸員)</p> | <p>東京藝術大学、細見美術館で販売した図録と同じものを当館においても税込2,200円で販売いたします。</p> |
| <p>神山委員</p> | <p>川越は職人のまちなので、こうした展覧会を見ると職人の仕事の素晴らしさがさらに伝わると思います。そうした意味でも川越にちなんだ良い企画だと思います。</p> |
| <p>長江委員</p> | <p>私も工芸に携わる人間として、「驚きの明治工藝」については、川越でもやっとうこういう展覧会が開催されるという気持ちでいます。これからもこうした展覧会を企画していただきたいと思っています。</p> |
| <p>塚原委員</p> | <p>川越は職人のまち、工芸のまちということで、工芸マップをイラストで作成してみたら、子どもたちも興味ひ</p> |

| | |
|----------------------|--|
| <p>長江委員</p> | <p>かれるのではないのでしょうか。</p> <p>昨年7月、ウエスタ川越で開催した川越市総合文化祭の中で川越美術協会工芸部門による体験活動を実施しました。団扇に絵を描いたり、籐で皿を作ったりしたのですが、小学生の参加も多く、仕上がった時の喜びは非常にいい経験になると思いました。市の協力があればさらにより良い活動も実施できるのではないかと考えています。</p> |
| <p>尾崎委員</p> | <p>特別展に目標観覧者数の記載がありますが、これは以前から設定されているのでしょうか。</p> |
| <p>事務局 (副館長)</p> | <p>前々回の当協議会において、現副会長から特別展ごとに観覧者数の目標を設定し、それに向けた努力を行う方が良いとの御提案をいただいたため、今回来年度予算要求するにあたり、明確な数値を設定しました。</p> |
| <p>尾崎委員</p> | <p>目標を達成するための努力がなければ、目標の意味がないわけですから、目標に対してどれくらいの達成率であったのか、達成しない理由やそれに対する具体的な対応策を考える等、今後そうした点を踏まえて、取組んでいただきたいと思えます。</p> |
| <p>事務局 (副館長)</p> | <p>前回の当協議会において、会長から川越市立美術館は雑誌や新聞などに有料広告・宣伝を出さないのかという御指摘があり、それを踏まえ、来年度予算において広告費を要求したところ、若干ですが予算がつく見込みとなりました。このことについては、観覧者数の目標値を定めたことが大きかったと思えます。今後、新聞、雑誌などの媒体にどの特別展の広告を出したら最も良い効果が得られるか、館内で研究していきたいと考えています。</p> |
| <p>副会長</p> | <p>目標値は達成できたか否かという縛りとして捉えるのではなく、目標を定めるとその実現に向けて考えるようになり、学芸と館運営の職員が互いの立場を超えて、ひとつの意思統一ができるようになる。また、期待していなかったのに多くの観覧者が入った、期待していたのに入らなかった、こうした結果の分析は、受け手側の市</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>民と美術館の中にいる職員との感覚がどれくらいずれているかを測る指標にもなる。</p> <p>広告費については、新聞、雑誌、トレインチャンネルなど、有効活用できるものを探すところから始めることになる。今後、アンケートを通じてその効果を解析していくこととなりますが、前向きに考えて取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>また、「中林忠良展」は、非常に重要であると思います。東京藝大退官後、まとまった展覧会の開催を期待する美術関係者も多く、県内ゆかりの作家がこういった形で顕彰されることは良いことだと思います。</p> <p>小村雪岱については、埼玉県立近代美術館の職員が監修に関わった書籍が出版されたり、雪岱を評価し続けている専門家の方もおり、雑誌でも特集が組まれたりしています。雪岱ゆかりの川越の地で開催することは意義あるものと思います。</p> |
| 高杉委員 | <p>今年度特別展のアンケート結果から見てわかるように、市外からの観覧者、初めて来た観覧者が半数を占めています。こうした現実を踏まえ、どのように広報活動を行っていくかというのが重要になってくると思います。また、観覧者数を多くするには、単に有名ところを集めてくればいいのですが、川越市立美術館の特徴を生かした特別展の企画に取り組んでいただくとともに、観覧者の多様な意見についても、対応できるものについては対応し、改善を図っていただきたいと思います。</p> |
| 塚原委員 | <p>バス見学で美術館に行ったことがあるという当時の小学生たちが大人になって再び美術館に来たということを知りたいと思っています。学校現場の教員が美術館を好きにならないと子どもたちを美術館に連れてくることはできません。そうした点からも資料4「平成28年度教育普及事業」に教員の枠を設け、美術館が教員に対し啓蒙的な役割を果たしているところを整理する必要があります。また、教育普及事業で実施されている事業に参加者の人数と教員や子どもたちの感想も表示していただきたいと思います。</p> |
| 事務局（主幹） | <p>資料につきましては、その他の欄に教員関係を表示しましたが、御指摘いただいたようにしていきたいと思</p> |

| | |
|----------------|---|
| <p>神山委員</p> | <p>ます。また、今週、教員に広く案内したアートカード研修を行うのですが、実際に現場の教員は多忙を極めており、特に関心の高い方でないと申込みできないというのが現実となっています。</p> <p>過去、中学校美術部の先生方に対し、私がバスを用意して送迎をするので、是非とも中学生の皆さんに「アートギャラリー呼友館」に来てもらいたいとお願いしたことがあります。実現したのは1校のみでした。先生自身が多忙を極めているのと、事故等の恐れがあるということで、なかなか踏み切れなかったものと思います。そうしたことから先生を取り巻く環境は厳しい状況にあると実感したことがあります。</p> |
| <p>高杉委員</p> | <p>高校の立場から言いますと、市民ギャラリーで高校生の作品を発表できる機会を与えていただきたいと思います。川越女子高等学校の場合、1年生に文化レポートという課題があり、国内外の博物館・美術館等文化施設を実際に訪問し、調査した内容をポスターにまとめ、発表するものです。そうした学習を行っているので、生徒らは川越市立美術館を利用することにより、地元にもこのような素晴らしい美術館があるということを確認できると思います。</p> |
| <p>議長（会長）</p> | <p>資料4「平成28年度教育普及事業」について、当協議会がより活発な議論ができるよう数値を示すなど、工夫をしていただきたい。</p> |
| <p>事務局（主幹）</p> | <p>事業については、個別に資料を作成しておりますので、それをまとめるような内容にしたいと思います。</p> |
| <p>山田委員</p> | <p>障害者の方で絵が上手な方がたくさんいます。そうした方々を美術館で取り上げていただきたい。</p> |
| <p>神山委員</p> | <p>障害者の方々も絵を描くことにやりがいを感じています。障害者アートを支える方々もたくさんいます。そうした方々に表舞台で光を当ててあげることが美術館のひとつの重要な役割だと思います。</p> |
| <p>事務局（館長）</p> | <p>現在、市民ギャラリーにおいて、障害者団体による展</p> |

| | |
|----------------------|---|
| <p>神山委員</p> | <p>覧会を開催しておりますので、是非御覧になっていただければと思います。</p> <p>2 議題</p> <p>(3) その他</p> <p>来年度「小村雪岱展」を開催するということですが、今や日本橋もコレド室町になっていて、東京でも江戸を感じさせる場所が少なくなっています。川越は蔵造りの町並みや喜多院等、今でも江戸を感じることができる貴重な建造物が数多く残っています。そうした中、川越市立美術館はここ数年川越を代表する作家の作品展を開催していないように思います。今年さいたまスーパーアリーナで世界盆栽展がありますが、それに伴い多くの外国人観光客が川越を訪れます。その際、川越のまちを見るのと同時に、川越ゆかりの日本を代表する作家、橋本雅邦、小茂田青樹、橋本次郎など、常設展示されている相原求一朗以外にもたくさんいるので、そうした作家の作品も御覧になっていただきたい。もし、展示スペースがないということであれば、相原求一朗記念室を利用して展示することも検討していただきたい。</p> <p>また、昨年東京国立博物館で小林斗盒先生の展覧会がありました。川越で文化勲章を受章された方は小林先生だけです。先生の生家跡地が自転車シェアリングの駐輪場となっておりますが、そこに先生を顕彰する碑などを建立していただきたい。市民はもちろん、先生は日本よりも中国で有名な方ですから、中国人観光客の方々はずいぶん喜びます。そのことを何課に要望したらいいかわかりませんが、是非美術館から提案していただきたいと願います。</p> |
| <p>事務局 (副館長)</p> | <p>川越ゆかりの作家を次世代につなげていくことはたいへん重要なことであり、教育普及事業としても意義あることだと思います。そうした点からも、常設展におきまして、ゆかり作家の名前を出して小特集を組むという見せ方も研究していきたいと考えています。小林斗盒先生に関しては、美術館、博物館、観光課で協議を行う場を設けたいと思います。</p> <p>また、前回の協議会の中で当館のウィークポイントとして高校生の来館者が少ないという御指摘をいただきました。それを受け、この間、高杉委員に御協力いただ</p> |

| | |
|---------|--|
| 事務局（館長） | <p>き、川越女子高等学校美術部他による合同作品展の開催に向け、現在、話を進めている状況であります。</p> <p>3 閉会</p> <p>来年度第1回協議会は、5月以降に開催したいと考えております。</p> |
|---------|--|